

どちらにころをつなぐか

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第 2711 号
(2011 年 4 月 2 日発行) より

私が全面応援している、かつこちゃん
(山元加津子さん)のメルマガで、ある投稿が、紹介されていました。

<http://miyakatsu.ti-da.net/e3011111.html>

今回の東日本大震災のことで、何かできないかと、ころをいためた中学生が、自分で描いたイラストを、あるサイトに投稿したところ、「自己陶醉」と批判されて、ショックを受けてしまったという内容でした。

あわせて、募金を呼びかけたら、「売名行為」と言われてしまったというかたの投稿も、紹介されていました。

どんなもの・ことにも、必ず、両面というものがああります。今回の震災で、被災地での、ひとびとの対応のすばらしさが報じられる一方で、あまり報じられてはいないけれども、やはり、窃盗や強奪というようなことも、起きているという話も伝わ

てきます。

そのとき、私たちは、自己選択をせまられているのだと思います。どちらにころをつなぐかを。

ひとに、批判されたとき(それがたとえいわれのないことであったとしても)、相手を批判し返すのも、ひとつの選択。自分を責めたり、うたがったりするのも、ひとつの選択。

でも、それがすべてではありません。相手をゆるすのも、ひとつの選択。どちらか正しい・まちがいでではなく、そのような視点もあるのかと、学びにするのも、ひとつの選択。もちろん、自分を責めない選択もね。

そして、もうひとつ。自分に照らしてみるということです。自分の内がわをしっかりと見るのです。

ちょっときびしいようだけれども、「自己陶醉」と言われて傷つくのなら、どこかに、そんな気持ちがひそんでいたのではないか。「売名行為」と言われて傷つくのなら、どこかに、それを怖れる気持ちが、

かくれてはいなかったか。

「ない」としっかり言えるのであれば、ただ、毅然としていけばよいのです。

もしも、ほんのかけらでも、「ある」と感じる部分があるのなら、指摘してくれたひとに、感謝して、今後は、本当にありたいかたちを、しっかりとめざしていけばよいのです。

ただそれだけのことなのです。そしてそうすることは、そのひとにとって、より実りある未来につながりこそすれ、問題になることは何ひとつないのです。

そしてね。これは蛇足ですが。そのような指摘をしたひとのころのことを、少し思ってみました。

そのひとは、もしかしたら、そのような行動をとれるひとを、無意識のうちに、うらやましいと思っていたのかもしれませんが、でも、それを素直に表現できずに、「自己陶醉」「売名行為」などという表現を使ってしまったのかもしれませんが。そんなことはよくあることなのです。

あるいは、そのひとはもともと、そういう表現のしかたを、悪気なく、使ってしまうひとなのかもしれません。たとえばちがいますが、関西弁で言われれば傷つかないのに、関東弁で言われると傷つく。そんなことだって、あるでしょう。

いいか悪いかは、別にして、そのひとにとっては、日常茶飯事の、ちょっと辛口の表現にすぎないことだって、実際にあるのです。(ちなみに、私も最近、そのような体験をしました)。(笑)

何が正解かは、わかりません。わかっているのは、それを選択する自分がいるということだけです。

あなたにとって、光ある選択を。それこそ何もできないけれど、そのことだけを、ただ応援しています。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、2003年11月1日創刊。2010年12月、2600号達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>